

島のひろば

第694号

「島のひろば」編集委員会電話 04992-2-8256

くらしの相談は共産党町議団へ

小池2-9318 山田2-3670
酒井090-4545-00328月 戦争を考え
平和を誓う「一つの声でも変化を
もたらすことはできる」

広島こども代表「平和への誓い」

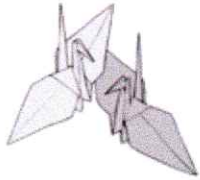
今から80年前の8月、日本は広島・長崎に原爆の大きな被害を受け、30年続けたアジア太平洋戦争に敗れ、ようやく戦争を終えました。8月6日、9日、15日と、マスコミも戦争のことを取り上げ私たち国民も戦争のことを考えます。

8月6日、広島市の平和記念式典で発表されたこども代表の「平和への誓い」を抜粋して紹介します。

「（前略）

世界では、今もどこかで戦争が起きてい

ます。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。周りの人たちのためにほんの少しの行動すること



が、いずれ世界の平和につながるのか。One voice たとえ一つの声でも、学んだ事実を思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはず。大人だけでなく、子どもである私たちも平和のために行動することができ。あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。」

多くの人に感動と勇気を与えてくれた言葉でした。

感動と勇気ということでは、昨年日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞というユニークな流れがありました。その被団協の代表委員である田中照巳さんは受賞スピーチの中でこんなことを述べています。

「核兵器国とそれらの同盟国の市民の中に、しっかりと、核兵器は人類と共存できない、共存させてはならないという信念が根付くこと、自国の政府の核政策を変えさせる力になることを私たちは願っています。」

人類が核兵器で自滅することのないように！そして核兵器も戦争もない世界の間社会を求めて共に頑張りたい！」

今を新しい戦前に
させないために

排外主義は戦争への道

7月の参院選の中で外国人を敵視する排外主義の主張が顕著となりました。先のこども宣言の中でもこどもたちが「多様性を認め、相手のことを理解しようとする」と正しく述べていますが、排外主義の矛先はやがて自国民にも向けられ、差別と分断をもたらす、戦争への道を開くというのは歴史の教訓です。

戦争できる国づくりは許さない！

第二次安倍内閣以降、それまで守られてきた平和のための原則が崩されてきています。例えば「集団的自衛権は行使できない」としてきたものが一定の条件の下

で可能」としたり、武器輸出三原則で武器輸出はできないとしてきたのに、戦闘機、護衛艦の輸出が行われようとしています。

とりわけ顕著なのが防衛予算です。2022年まではGDP比1%に抑えていたのに2%に上げ、アメリカからは5%などという圧力もかかり始めています。防衛費を確保するために国債を発行したり、やがては増税も心配されています。また、2016年以降沖縄県南西諸島には自衛隊の基地が次々と作られています。

こうした動きに対し、「今を新しい戦前にさせない国民的な運動」が求められています。

出張所統廃合問題 住民説明会9会場で開催

本紙6月号でもお知らせしたとおり出張所の統廃合に関する住民説明会が、島内9会場で開かれ

ました。多くの質問や意見が出されました。役場側からの説

明

島の人口減少から出張所の業務は減少しているのに対し、慢性的な人手不足で本庁の業務遂行が困難になっていることから出張所職員4名を本庁に異動させたい、そのため出張所は差木地・岡田の2カ所としたい。サービス低下軽減措置として宅配サービスを実施。激変緩和措置として廃止される4出張所を来年3月まで週2回開所する。公民館・コミュニティセンター等は今まで通り、避難所も今までと変わ

らず開設する。財産区の事務局は岡田・差木地・本庁総務課に置く。等の説明がされました。

住民からの質問

や意見(※出されたものからピックアップし、役場の回答は省略しました。)

・泉津は保育園がなくなり、小学校もなくなりました。出張所まですなったら地域が維持できない。

・北の山には学校がない。さらに出張所がなくなるとコミュニティが崩れる。

・出張所と公民館は地域活動の拠点。

・自分の親は家を継がせるために帰ってこいと言ってきたが、自分は自分の子に出張所がなくなったら野増に帰ってこいとは言えなくなる。
・ここ数年波浮は元

気になっている。せっかく活気が戻っているのだから出張所はなくなさないでほしい。

・住民が頑張っているのを応援するのが行政。応援せずに出張所を廃止するのはおかしい。

・人手不足について採用についての工夫や、その後の研修などはきちんとされているのか疑問だ。

・出張所が何通証明書を出したかで業務量を計るのはおかしい。住民の様子を守り、サービスをすることが出張所の仕事であり、そこに職員も高い志をもって勤務しているはずだ。

・本庁職員を4人増やすために出張所を閉鎖し2千人の住民に迷惑をかけるのは町長が掲げる「やさしい島づくり」に反

するのではないかと。役場職員の若年層の中途退職が増加していると言われるがなぜそのようなことが起きるのか、考えているのか。対策は講じているのか。

・毎日開設でなくても一日おきの開設や職員のローテーションなどは考えられないか。

・リモートワークなどという仕事の仕方もとついで、出張所にいながら本庁の業務にもあたるといいうことはできないか。

・この説明会は決定事項の説明会なのか。そうでないとすればもっと前の段階で住民の意見をきいてほしい。

町長は、今回出された意見を精査し再度説明したいと繰り返し返していました。



大島文学・紀行散策

拾遺編

耕平逍遙

—— 童話・書簡・日記を読む

二三

553

時得孝良

立木遵さんの「大島における土田耕平」によれば、山田ヨシ、下村ヨネ(お兼)の外に若い娘の「おサキ、おキミ」が「同質の病氣」で亡くなっ

たことを紹介し、「青春をいだいた耕平が、この娘たちの逝去に心痛まないはずはありません。『青杉』に掲げられた哀しみの歌、述懐、墓前の一連は、それをよく表していると思います。」と追記している。収載歌を紹介しよう。

●きのうふまで常にわが見しうつくしき黒髪の子はいづち(どの方向) 去りけむ

●菜(あしたぼう) 摘み籠腰にさげもて行きし子をすこやかなりと我思ひしに

《哀しみ歌》

島娘の夭折といえは、時はくだるが、私は娘茶屋の立木菊枝のことを思い出す。菊枝は茶屋で詩人の西城八十と出会い、色紙に絵を描いてもらう。八十は菊枝の死を聞き「哀歌」という短い詩を残している。

《述懐》

(次号へ)